

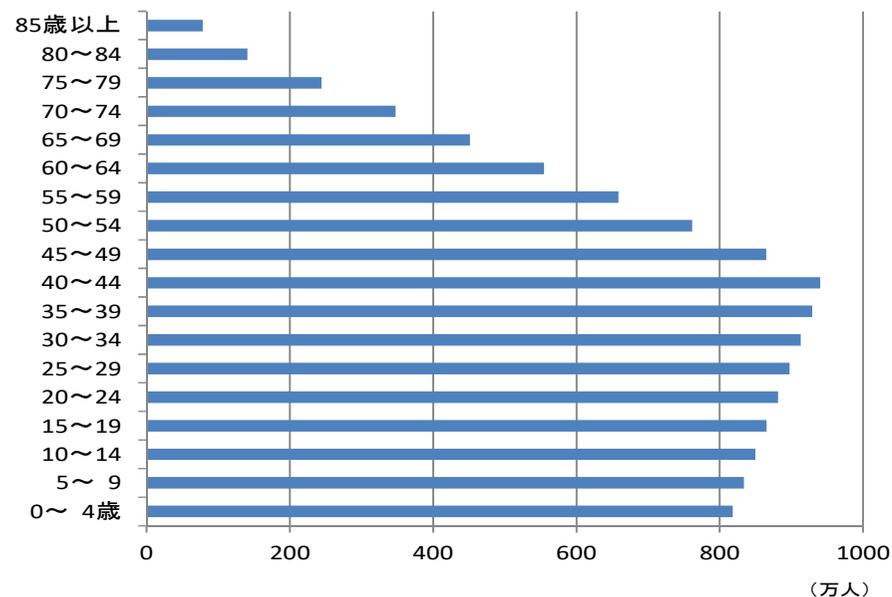
# 基準人口の改訂に係る要否について

## 1. 年齢調整死亡率の算出に用いる基準人口の現状

- 年齢調整死亡率(年齢構成の異なる集団について死亡状況の地域比較や年次比較ができるように年齢構成を調整しそろえた死亡率)は、都道府県が保健医療行政施策を立案し、その効果を評価するための指標として用いられているほか、健康日本21(第二次(2013年度～2022年度))の2018年の中間評価において、75歳未満のがんや脳血管疾患等の年齢調整死亡率の直近の実績値が目標値と比べて改善したとされ、年齢調整死亡率は公衆衛生分野における評価や目標設定をするうえでの重要な指標。
- 年齢調整死亡率の算出にあたっては、平成2年より昭和60年モデル人口(昭和60年の国勢調査人口を基に補正した人口)を現在も使用。

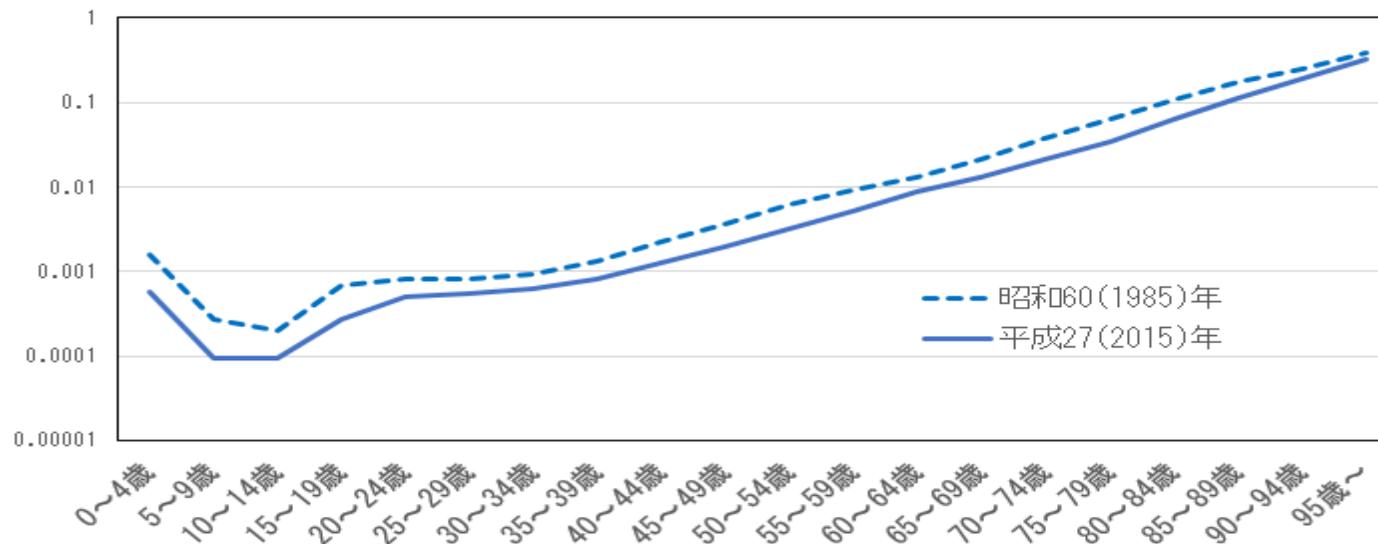
<現行の基準人口(昭和60年モデル人口)>

| 年齢階級  | 基準人口(人)     |
|-------|-------------|
| 0～4歳  | 8,180,000   |
| 5～9   | 8,338,000   |
| 10～14 | 8,497,000   |
| 15～19 | 8,655,000   |
| 20～24 | 8,814,000   |
| 25～29 | 8,972,000   |
| 30～34 | 9,130,000   |
| 35～39 | 9,289,000   |
| 40～44 | 9,400,000   |
| 45～49 | 8,651,000   |
| 50～54 | 7,616,000   |
| 55～59 | 6,581,000   |
| 60～64 | 5,546,000   |
| 65～69 | 4,511,000   |
| 70～74 | 3,476,000   |
| 75～79 | 2,441,000   |
| 80～84 | 1,406,000   |
| 85歳以上 | 784,000     |
| 合計    | 120,287,000 |

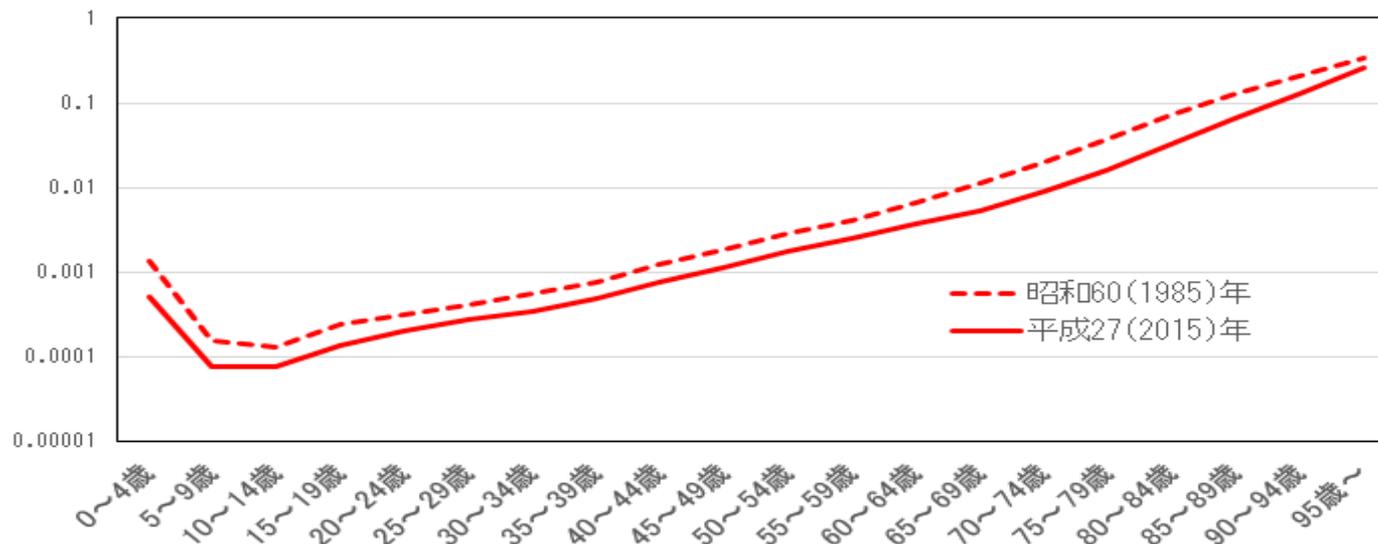


○ また、年齢調整死亡率の算出に必要な年齢階級別粗死亡率は、この30年間で下図のように改善がみられる。

年齢階級別死亡率（全国男－95歳以上一括）

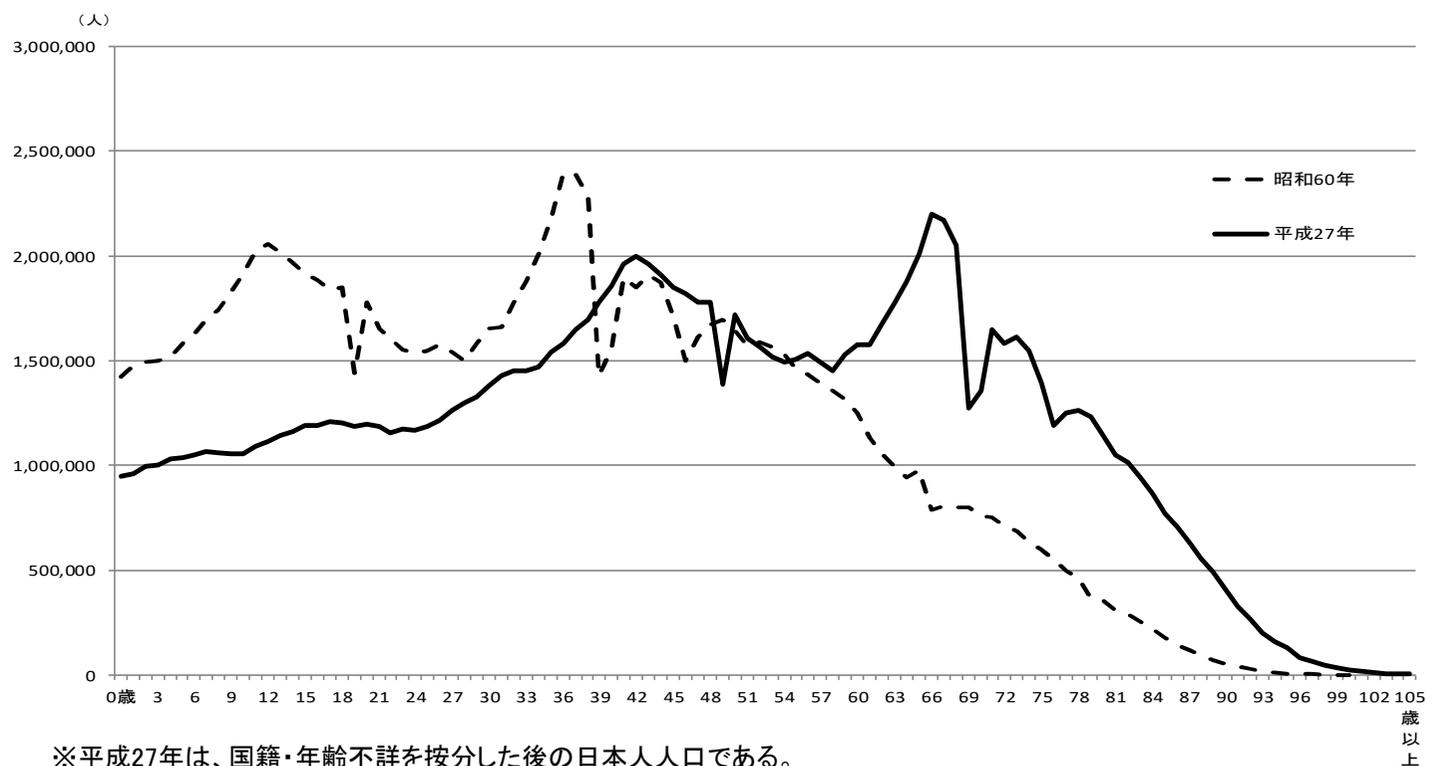


年齢階級別死亡率（全国女－95歳以上一括）



- なお、現在使用している基準人口は前回の改訂から25年以上が経過し、高齢化が進むなかで、現実の人口構成とは異なってきている。近年、専門家の方から、「昭和60年モデル人口における高齢部の年齢構成割合は現在の人口における年齢構成割合と比べて低いため、高齢化が進行し、死亡率が改善している中で、年齢調整死亡率に死亡の改善状況が十分に反映されず問題ではないか」といった意見が寄せられている。

<昭和60年及び平成27年の国勢調査における日本人人口>



- 特に、下表は三大死因の粗死亡率の年齢調整死亡率に対する比率の年次推移を示したものであるが、男女とも上昇しており、平成27年は昭和60年の2倍以上となっている。

|       | 昭和35年 | 40年  | 45年  | 50年  | 55年  | 60年  | 平成2年 | 7年   | 12年  | 17年  | 22年  | 27年  |
|-------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 全死因   |       |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 男     | 0.56  | 0.57 | 0.62 | 0.67 | 0.74 | 0.85 | 0.98 | 1.14 | 1.35 | 1.60 | 1.89 | 2.25 |
| 女     | 0.66  | 0.69 | 0.75 | 0.84 | 0.97 | 1.17 | 1.43 | 1.73 | 2.10 | 2.59 | 3.16 | 3.80 |
| 女／男   | 1.19  | 1.20 | 1.21 | 1.26 | 1.31 | 1.37 | 1.45 | 1.51 | 1.56 | 1.62 | 1.67 | 1.69 |
| 悪性新生物 |       |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 男     | 0.59  | 0.62 | 0.67 | 0.71 | 0.78 | 0.87 | 1.00 | 1.16 | 1.36 | 1.61 | 1.88 | 2.18 |
| 女     | 0.68  | 0.73 | 0.79 | 0.87 | 0.97 | 1.11 | 1.29 | 1.51 | 1.75 | 2.06 | 2.38 | 2.67 |
| 女／男   | 1.16  | 1.17 | 1.19 | 1.23 | 1.25 | 1.28 | 1.29 | 1.30 | 1.29 | 1.28 | 1.26 | 1.23 |
| 心疾患   |       |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 男     | 0.49  | 0.52 | 0.56 | 0.61 | 0.71 | 0.83 | 0.98 | 1.15 | 1.37 | 1.63 | 1.94 | 2.31 |
| 女     | 0.63  | 0.66 | 0.72 | 0.81 | 0.97 | 1.20 | 1.51 | 1.88 | 2.40 | 3.05 | 3.91 | 4.73 |
| 女／男   | 1.28  | 1.28 | 1.28 | 1.32 | 1.36 | 1.45 | 1.55 | 1.64 | 1.75 | 1.87 | 2.01 | 2.05 |
| 脳血管疾患 |       |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 男     | 0.50  | 0.53 | 0.57 | 0.62 | 0.71 | 0.83 | 0.98 | 1.15 | 1.38 | 1.67 | 1.97 | 2.32 |
| 女     | 0.62  | 0.66 | 0.72 | 0.82 | 0.97 | 1.20 | 1.50 | 1.90 | 2.37 | 2.97 | 3.63 | 4.32 |
| 女／男   | 1.22  | 1.23 | 1.26 | 1.32 | 1.37 | 1.45 | 1.54 | 1.65 | 1.71 | 1.78 | 1.84 | 1.86 |

平成27年における粗死亡率及び昭和60年モデル人口に基づく年齢調整死亡率(人口10万対)

| 男       |        | 女       |       |
|---------|--------|---------|-------|
| 年齢調整死亡率 | 粗死亡率   | 年齢調整死亡率 | 粗死亡率  |
| 486.0   | 1092.6 | 255.0   | 970.1 |

## 2. 基準人口の改訂の要否に係る論点

- 以上から、今般、基準人口を改訂する方向でよいか(これまでも概ね25年ごとに改訂)。

## (参考) 前回の基準人口改訂に係る経緯

- 訂正死亡率(※1)を算出するための基準人口について、年次比較には昭和10年人口、都道府県比較には昭和35年人口が使用されていたが、死亡率が改善し、人口ピラミッドが変化してきたため、昭和63年1月の第一部会(※2)に、4つの人口(①昭和10年人口、②昭和60年人口、③世界人口(※3)、④ヨーロッパ人口(※3))に基づく訂正死亡率を示し審議を開始したが、結論は保留。

※1 前回の基準人口の改訂と同時に、名称が「年齢調整死亡率」に変更(以下同じ)

※2 第一部会とは、当時の「厚生統計協議会人口動態統計に関する部会」の略称(以下同じ)

※3 ③と④はIARC(International Agency for Research on Cancer)が分析に用いたもの

- 平成元年度の第一部会において、基準人口を変更すること及び基準人口は昭和60年平滑化人口が適当であるか審議し、基準人口の変更については全体として肯定的だったが、「基準人口の変更は、医学、公衆衛生学界等に与える影響が大きいと考えられる。幅広く意見を聞き、コンセンサスを得る必要がある。」との意見があった。
- 当該意見を踏まえて検討することを目的に、平成2年2月の第一部会で統計情報部長の諮問機関である訂正死亡率の基準人口に関する検討委員会(以下、「検討委員会」という。)の設立が了承され、同月の検討委員会において、有識者に対するアンケート調査を実施すべく、アンケートの対象や内容を議論。
- 平成2年7～8月にアンケート調査が実施され、①それまでの基準人口に問題ありが回答者の89%、②年次・都道府県比較とも、昭和60年平滑化人口が望ましいが40%以上という結果
- 平成2年10月の検討委員会において、アンケート結果に基づき検討の集約を行い、「基準人口の見直しが必要であり、新しい基準人口の選定について、年次・都道府県比較ともに、昭和60年平滑化人口が適当」とする意見書をまとめ、統計情報部長に提出。
- 平成3年1月の第一部会において、検討委員会における上記意見書をうけ審議し、「基準人口は見直しが必要であり、新しい基準人口は昭和60年モデル人口が適当」などと結論